

わたしは  
空き家を  
知らない！

鹿児島は「空き家」が増えて社会問題化して、テレビや雑誌で見かけるのに、わたしは空き家がどこにあるのか、どんなものなのか、なにひとつ知らない。知らないものを考えることも、救うこと、再生することもできない。だから、まずはること、理解することが大切だと思う。空き家を知ってるわたしたちにはそれが鹿児島の宝物にできるパワーがあるから。



知らない「空き家」を  
日常風景で知るために

空き家の道をペイントしてはじまるまち

空き家が誕生したら祝おう。みんなで空き家に接する道路を赤くペイントする。近隣の人はもちろん、往来のみんながそこにある空き家に気づき、知ることができる。知ることはよろこびのはじまりになる。



道のペイントは 空き家と人とをむすび  
行政と市民を柔らかく やさしくつなぐ

空き家誕生の気づきは空き家と往来のすべての人々をむすんでくれるだけじゃない。民地の出来事（空き家化）で公道をペイントすることは「官」と「民」とが適度に関係を築くきっかけづくりになる。

